

ディプロマ・ポリシー

【機械工学科】

鈴鹿高専の（機械工学科）の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位（全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする）を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞自己と世界の関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

＜技術者倫理＞生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる能力。

＜意欲＞習得した知識・能力を超える問題に備えて、自ら継続的・自律的に学習できる能力。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞実践的技術者に必要な数学、自然科学及び AI・データサイエンスに関する情報技術の知識の内容を習得し、それを活用できる能力。

＜専門＞機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を習得し、地域・社会に貢献できる能力。

＜展開＞習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる能力。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現（記述・伝達・討論）できる能力。

＜英語＞英語による基本的なコミュニケーションができる能力。

また、機械工学科の特色としては、伝統的な機械工学の基礎から応用に加えて、コンピューターを活用した設計能力の育成、マイコン制御から数値解析プログラミングまで、実践的かつ創造的なロボットテクノロジー教育にも力を入れている。

ディプロマ・ポリシー

【電気電子工学科】

鈴鹿高専の（電気電子工学科）の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位（全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする）を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

<視野>自己と世界の関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

<技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる能力。

<意欲>習得した知識・能力を超える問題に備えて、自ら継続的・自律的に学習できる能力。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

<基礎>実践的技術者に必要な数学、自然科学及び AI・データサイエンスに関する情報技術の知識の内容を習得し、それを活用できる能力。

<専門>電気電子工学に関する分野の知識を習得し、地域・社会に貢献できる能力。

<展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる能力。

(C) コミュニケーション能力

<発表>他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現（記述・伝達・討論）できる能力。

<英語>英語による基本的なコミュニケーションができる能力。

また、電気電子工学科の特色としては、電気電子工学の基礎から専門の科目に加え、その知識を活用できる高電圧、電気材料、半導体等に関する科目の学習や工学実験に力を入れている。また、電気主任技術者資格取得を念頭に置いた電気法規、製図等の科目も用意している。さらに、Society5.0時代の未来技術の中核となる人材育成を目指して、ICT、IoT、ロボットテクノロジー分野へ応用できる科目の学習にも取り組んでいる。

ディプロマ・ポリシー

【電子情報工学科】

鈴鹿高専の（電子情報工学科）の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位（全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする）を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

<視野>自己と世界の関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

<技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる能力。

<意欲>習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる能力。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

<基礎>実践的技術者に必要な数学、自然科学及び AI・データサイエンスに関する情報技術の知識の内容を習得し、それを活用できる能力。

<専門>電子情報工学と関連分野の知識を習得している、地域・社会に貢献できる能力。

<展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し、電気・電子および情報・通信技術を融合し、新たな価値を生み出す能力。

(C) コミュニケーション能力

<発表>他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現（記述・伝達・討論）できる能力。

<英語>英語による技術文書の記述・読解が出来る能力。

また、電子情報工学科の特色としては、電気電子系および情報系 MCC のほとんどの科目を網羅したハードとソフトの両方の基礎を学び、電子物性や知的情報処理に関する応用をより実践的に身に付けた学生に卒業を認定している。

ディプロマ・ポリシー

【生物応用化学科】

鈴鹿高専の（生物応用化学科）の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位（全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする）を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞自己と世界との関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

＜技術者倫理＞生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる能力。

＜意欲＞習得した知識・能力を超える問題に備えて、自ら継続的・自律的に学習できる能力。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞実践的技術者に必要な数学、自然科学及び AI・データサイエンスに関する情報技術の知識の内容を習得し、それを活用できる能力。

＜専門＞化学及び生物化学に関する専門知識・実践技術を習得し、地域・社会に貢献できる能力。

＜展開＞習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる能力。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現（記述・伝達・討論）できる能力。

＜英語＞英語による基本的なコミュニケーションができる能力。

また、生物応用化学科の特色としては、化学・生物系分野のMCC学習内容を系統的に学習できるようカリキュラムが設計されている。さらに座学においては界面化学や量子化学、生体材料工学、細胞工学、遺伝子工学など、実験科目においては分子軌道計算や遺伝子組換えなど、MCC学習内容には含まれない内容も教授し、基礎学力と実践力の両方がより高いレベルで身につけられることにも力を入れている。

ディプロマ・ポリシー

【材料工学科】

鈴鹿高専の（材料工学科）の学習・教育到達目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、本校第5学年修了時に所定の単位（全学年において修得した単位は、167単位以上、そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする）を修得した学生に対して卒業を認定し、準学士の称号を授与する。

(A) 技術者としての姿勢

<視野>自己と世界の関係を理解し国際的素養を身につけ、地球規模で物事を眺めることができる能力。

<技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響や AI 社会への進展（深化、変化、変革）を認識し責任を自覚できる能力。

<意欲>習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、自ら継続的・自律的に学習できる能力。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

<基礎>実践的技術者に必要な数学、自然科学及び AI・データサイエンスに関する情報技術の知識の内容を習得し、それを活用できる能力。

<専門>材料工学科と関連分野の専門基礎知識、専門知識・技術を習得し、地域・社会に貢献できる能力。

<展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる能力。

(C) コミュニケーション能力

<発表>他者と協働し、自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に表現（記述・伝達・討論）できる能力。

<英語>英語による基本的なコミュニケーションができる能力。

また、材料工学科の特色としては、材料系分野の MCC に準拠した内容を3年生までに系統的に教授した後、金属材料、無機材料、有機材料に関する高度な専門知識を習得するためのカリキュラムを学生自身が興味に合わせてデザイン可能な教育プログラムを遂行している。さらに、最新の機器を利用した材料の設計、合成、加工、分析および評価、ならびに CAD による機械設備の設計・製図など、実践的能力の涵養にも注力している。

ディプロマ・ポリシー

【総合イノベーション工学専攻】

総合イノベーション工学専攻では、専攻科の教育方針および総合イノベーション工学専攻の教育目標のもと、所定の単位を修得し、以下の知識および能力を身につけた学生に対して修了を認定する。

(A) 技術者としての姿勢

- <視野>自己と世界を理解し地球規模で物事を眺めることができる。
- <技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。
- <意欲>習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

- <基礎>数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。
- <専門>基礎工学に加え、主となる専門分野において環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーの各コースに関する専門工学の知識を習得し、それを活用できる。
- <展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。

(C) コミュニケーション能力

- <発表>自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
- <英語>英語による基本的なコミュニケーションができる。